

平成 21 年度コミュニティ・スクール推進協議会 実践発表資料

(ふりがな)	(なかとさちょうりつ くれ ちゅうがっこう)									
学 校 名	中土佐町立久礼中学校									
(ふりがな)	(たかおかぐん なかとさちょう くれおかのまえ)									
所 在 地	高知県高岡郡中土佐町久礼岡の前52-2									
電話番号	0889 (52) 2811			FAX番号		0889 (52) 2839				
学級数		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	
		2	2	1				2	7	
児童・生徒数		47	43	36					126	
	(特支)	1	1	2					4	
教職員数	17人	学校運営協議会を置く学校として指定された年月日				平成19年 4月 1日				
学校運営協議会の 委員数・構成	12人	内 地域代表4人、保護者代表3人、教職員1人、 訳 地域内保育所・小学校2名、教育行政代表2名 学校運営協議会代表者(会長等): 地域代表								
その他	平成17～18年度にコミュニティ・スクール推進事業の調査研究指定校となっている。									

(平成21年7月1日時点)

I 学校運営協議会設置までの経緯、設置後の改善状況

1. 「学校運営協議会を置く学校(コミュニティ・スクール)」指定前の状況

- 学校が地域に真に理解されていない。(誤解されている)
 - 例) 学校は荒れているのではないか。
 - 生徒の学力は十分に身につけておらず、進路保証ができていない。
 - 部活動の練習が盛んでなく、成果も挙げていない。
- 総合的な学習の時間などで、地域から学ぶ学習に取り組みたいが、学校と地域のつながりがあまりない。

2. 学校運営協議会の設置を決めた理由

- 学校と保護者・地域が学校運営について協議する場を持つことで、三者が同じ視点に立つことができ、教職員と保護者、地域の方が心通う・共に喜び合う状況づくりを進められると判断した。
- 地域住民が学校運営に参画することで、地域の声を学校運営に反映させることができ、地域が望んでいる「地域について学ぶ学習」を取り入れていけると判断した。

3. 学校運営協議会の設置方針の決定後から設置までの課題とその対応状況

- 学校運営協議会において、何を議題とするのか。
 - ⇒ コミュニティ・スクール推進事業（国の事業）による推進委員会において、学校運営協議会で扱うべき議題のあり方について協議を進める中で、次の2つを協議題の条件・重視する視点とすべきであるとの結論に至った。
 - （協議題の条件）
 - ・教育活動のみならず、施設管理や整備、予算など学校運営全般について学校運営協議会委員の方が理解できるもの、参画できるもの
 - （重視する視点）
 - ・地域の特長や人材を活かした教育活動、地域ボランティアの力を借りた施設整備など、生徒、保護者・地域の方の力を活かすことができるもの
- 学校運営協議会の場で、学校の実情をどこまで伝えていくか。
 - ⇒ 学校運営協議会の委員には守秘義務があり、学校運営に真に参画していくためにも、様々な事案を隠さずに伝えていくことが大切であるとの結論に至った。

4. 学校運営協議会が学校や教育委員会に対してこれまでに提案してきた主な意見等

【学校運営の基本的な方針に対するもの】

- 生徒の学力向上を目指した取組を進めて欲しい。
- 学校と地域をつなぐコーディネーター役が必要ではないか。
- 部活動の充実を図って欲しい。（練習場所・指導者の確保を含めて）
- あいさつができる生徒へと育成して欲しい。

【学校運営に関する事項に対するもの】

- 学校行事への要望（地域住民が参加しやすい工夫を）
- 総合的な学習への取組について（生徒が課題意識を持てるように工夫改善を）
- 生徒指導について（自転車の乗り方指導，課題を抱える生徒への対応等）
- 新校舎の設計について（生徒意見の取り入れ，ランチルーム等）
- 学校の情報をもっと地域に伝えて欲しい。

【学校の職員の採用その他の任用に関する事項に対するもの】

- 特になし

5. 学校運営協議会が提案した意見を踏まえた、学校や教育委員会の具体的な取組

【学校運営に関すること】

- 生徒の学力向上を目指す各種取組の実施
(学力向上サポーター事業, 学力向上支援チーム訪問, 家庭学習への取組など)
- 学校支援地域本部事業への取組
- 部活動の外部コーチの登用, 練習場所の整備
- あいさつ運動の実施 (標語の募集, 啓発活動, 地域での声かけ)

【教育活動に関すること】

- 体育祭に地域の伝統芸能「おなばれ」の演技を取り入れる。
- 南海地震に備えた防災学習を地域と協働で行う。
- 望ましい食習慣を目指し朝食作り教室を地域と協働で行う。
- 地域の課題解決を目指した中学生としての意見を文化発表会で発表する。
- 自転車の乗り方について、徹底した指導を行う。
- 課題を抱える生徒に関する情報交換の実施 (学校と地域の関係者間)
- 新校舎の設計に、生徒の意見を取り入れる。(トイレの位置, 和洋式の配分など)
- 新校舎の設計に、全校生徒が一度に給食を実施できるランチルームとして使え、全校生徒が集合して外部講師の講演等も実施できる多目的教室を導入する。
- 学校便りを地域への回覧で回したり、ホームページで閲覧できるようにする。

【教職員の任用に関すること】

- 特になし

6. 学校運営協議会の設置後に感じられる変化 (成果)

【学校 (教職員) 側】

- 地域との協働による取組が増え、学校と地域のつながりが深まった。
- 地域への関心が高まり、地域を題材とする学習の機会が増えた。

【教育委員会側】

- 地域の学校に対する要望を聞くことができ、地域ニーズの把握ができた。
- 学校と地域がつながる大切さが理解できるようになった。

【園児・児童・生徒側】

- 地域で声がけされたり、挨拶を交わす機会が増えた。
- 地域の一員である意識が高まり、中学生なりに町の課題を意識するようになった。

【保護者側】

- 地域の子どもを地域で育てるという見方が広がってきた。
- 学校を仲介とした、保護者と地域とのつながりができつつある。

【地域側】

- 地域に学校の情報が伝わるようになり、学校に対する理解が深まった。
- 生徒への声かけが多くなり、地域で子どもを育てる機運が高まった。

7. 学校運営協議会の設置後に抱えている課題

- 学校の取組を理解し、地域の子どもは地域で育てるという視点で協力・支援してくれる地域住民・ボランティアをもっと増やしていくこと。
- 地域を教育活動への協力者から参画者に高め、一定の責任を持って学校の管理運営の分野にも主体的に携わろうとする意識を持たせること。

8. 上記7の課題の解決に向けた今後の取組予定

- 学校支援地域本部事業により配置されている地域コーディネーターを活用して、学校支援ボランティアを広く募るとともに、学校が地域の支援を必要とする用務の洗い出しを学校運営協議会が中心となって進めていく。
- アンケートなどで生徒・保護者・地域住民の声を聞くと共に、学校運営協議会が学校関係者評価を行い、次年度の学校運営に活かす仕組みを確立する。

アンケートの趣旨・目的

より良い学校づくりのために、現在行われている取組が成果を挙げていると感じているか、どのような取組が不足していると感じているかを探る。

II 学校運営協議会の実際の運営状況等

1. 学校運営協議会の運営状況

(平成20年度実績：年5回開催)

回	年月日	議 題 等
1	H20. 6. 4	H20年度の主な取組, あいさつ運動標語の募集
2	H20. 8. 27	体育祭の取組, 学校支援地域本部事業
3	H20. 10. 30	文化発表会の取組, 学校評価, 生徒との意見交換会
4	H21. 1. 27	学校の自己評価・アンケート集計結果の報告, 学校関係者評価
5	H21. 3. 26	H20年度活動報告, H21年度学校運営方針の承認
(補記) ・臨時会をH20. 7. 4に開催(生徒指導事案の報告) ・学校運営協議会が提案した取組等を行うために、学校運営協議会の下に3つの部会を設置。学校運営協議会委員がその3部会に分かれて参加する部会を以下のとおり開催 学習部会(H20. 7. 4) 防災教室の内容・準備について 行事部会(H20. 7. 9) 体育祭でのおなげれ演技の実施について 保小中連携部会(H20. 12. 1) 朝食作り教室の取組について		

2. 学校運営協議会に関する基本情報等

- 学校運営協議会を置く学校としての指定期間（年数）※規則上
- 学校運営協議会の委員の任期（年数）※規則上
- 学校運営協議会の委員の改選方法の工夫

3年

3年

委員を充て職で選出するのではなく、学校に積極的に関わろうとしている人に委員になってもらうようにする。
--

- 学校運営協議会の議事内容の公開状況

毎回議事録を作成し、委員および教職員に配付するとともに、ホームページで公開している。要点については、学校便りで紹介するようにしている。

3. 学校の教育活動に協力する仕組み（PTA、学校支援地域本部事業等）との連携状況

- 学校支援地域本部事業を進める上で、学校運営協議会はその土台となる役割を担う。
学校支援地域本部事業の進捗状況を随時報告する。
事業実施に対する意見をその都度出してもらう。
- 学校運営協議会とPTAの連携を図る。
学校運営協議会の取組にPTAも協力する。（あいさつ運動）
PTAの取組に学校運営協議会も協力する。（PTA出店、学校行事）

4. 学校運営に対する意見を聞く他の仕組み（学校関係者評価、外部アンケート等）との連携状況

- 学校運営協議会において学校関係者評価を実施する。
- 学校関係者評価を実施するため、学校の自己評価と教職員・生徒・保護者・地域住民を対象としたアンケートの結果を学校運営協議会で報告する。

5. その他

（別添資料）

- 久礼中学校運営協議会 年間計画（H21年度）
- 地域が学校に参画する主な取り組み
- 久礼中がめざすコミュニティ・スクール、学校運営協議会
- コミュニティ・スクールだより第39号（H21.5.20発行）
- 「より良い学校づくりに関するアンケート」集計結果（H20.12実施）

久礼中学校運営協議会 年間計画（H21年度）

○学校運営協議会

回	期日	内容
1	5/19(火)	H21年度主な取組について あいさつ運動について
2	8/26(水)	体育祭への取組について 教職員との意見交換会
3	10/27(火)	文化発表会の取組について 生徒会との意見交換会
4	1/28(木)	学校関係者評価の実施 次年度に向けての意見交換
5	3/29(月)	H21年度活動報告 H22年度学校運営方針について

○部会の開催

※委員の他に関係者も加わり、具体的な実践活動を行う

部会名	内容
学習部会	人権講演会の開催(未定)
行事部会	体育祭でのおなばれ演技の実施(9/13)
保小中連携部会	朝食作り教室の開催(1/21・28)

○主な学校行事(学校運営協議会委員に案内をするもの)

期日	内容
9/13(日)	体育祭
11/11(水)	マラソン大会
11/22(日)	文化発表会
3/14(日)	卒業式

地域が学校に参画する主な取り組み

1 学校運営協議会で協議するもの

(1) 体育祭

久礼地区の伝統芸能「おなばれ」を種目に取り入れるなど、地域に喜ばれる学校行事を目指す。

(2) 文化発表会

学校だけでなく、久礼地区中心部にある町民交流会館で開催することで、学校から地域への文化の発信を行う。

(3) あいさつ運動

あいさつを社会に出る前に身に付けなければならない基本的資質と捉え、地域ぐるみで取り組みを進める。(標語の募集や啓発活動を実施)

2 部会にて協議するもの

(1) 人権講演会

互いに高め合う生徒の育成を目指して、人権感覚を培うことを目的とした人権講演会を開催する。

(2) 体育祭でのおなばれ演技

地域の協力によりおなばれ演技の指導を行い、伝統文化の継承を目指す。

※特に、地域の協力体制の構築について協議する

(3) 朝食作り教室

ゲストティーチャーを招いてモデル的な調理実習を行うことで、朝食摂取の大切さを学び、自分の食生活をコントロールする力を育成する。

3 その他

(1) カツオのたたき体験実習

久礼地区の文化の象徴である「カツオのたたき作り」をゲストティーチャーの協力のもと体験し、カツオに懸ける地域の思いを知る。

(2) 総合的な学習 ※それぞれの学習成果は、文化発表会で報告する

① ふれあい学習（1年）

地域の方に指導者となってもらい、文化・芸能の体験活動を行う

② トライワーク（2年）

町内各事業所の協力のもと、職場体験学習を行う

③ 中土佐町の課題（3年）

地域へのフィールドワーク等で地域の課題を探り、課題解決に向けた提案を行う

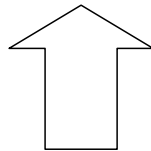
(3) マラソン大会

地域の中心部を周回するコース設定により、地域の声援を受けて生徒が活躍する行事を目指す

久礼中がめざす コミュニティ・スクール 学校運営協議会

めざすもの

教職員と保護者，地域の方が心通う・共に喜び合うことのできる状況づくり



学校運営協議会

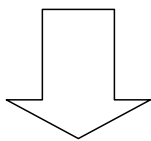
協議題の条件

学校運営全般について
学校運営協議会委員の
方が理解できるもの、
参画できるもの



重視する視点

生徒，保護者・地域の
方の力を活かすことが
できるもの



取組

学校，家庭，地域・行政が協力し作品を仕上げる

学校としては何を	家庭としては何を	地域・行政としては何を
○	○	○
○	○	○
○	○	○

コミュニティ・スクールだより

平成21年 5月20日

第 39 号

発行 中土佐町立久礼中学校運営協議会

今年のコミュニティ・スクールとしての活動内容

5月19日に本年度第1回目の学校運営協議会が開かれ、今年のコミュニティ・スクールとしての活動内容について協議しました。以下の取組を進めていきますので、地域のみなさんのご協力をお願いします。

○あいさつ運動

あいさつを社会に出る前に身に付けなければならない基本的資質と捉え、地域ぐるみで取組を進める。

○人権講演会

互いに高め合う生徒の育成を目指して、人権感覚を培うことを目的とした人権講演会を地域との協働で開催する。

○体育祭でのおなばれ演技の披露

地域の協力によりおなばれ演技の指導を行い、伝統文化の継承を目指す。

○朝食作り教室

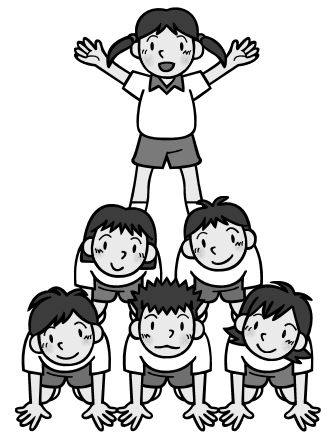
モデル的な調理実習を行うことで、朝食摂取の大切さを学び、自分の食生活をコントロールする力を育成する。

○学校支援地域本部事業（文部科学省指定事業、3年指定の2年目）

学校支援ボランティアを幅広く募り、ボランティアを活用した各種の学校支援活動を実施する。（保育所・小学校とともに事業展開）

○その他

カツオのたたき体験実習、マラソン大会での安全指導
総合的な学習における各種体験活動の実施 など



地域あいさつ運動を実施します

先月のコミュニティ・スクールだよりでお伝えしたように、学校移転により街に近い環境で過ごすことをチャンスと捉え、今年度から「地域あいさつ運動」を以下のように実施することになりました。保護者・地域のみなさんのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

実施日 毎月20日の県民交通安全指導日

※20日が土・日・祝日の場合は、翌登校日に実施

場所 中華料理店「日輪」前

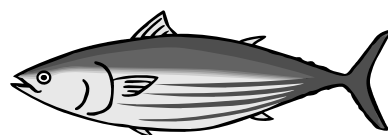
時間 7:45～8:10

参加者 教職員代表，生徒会代表，PTA代表，地域代表

内容 自転車の乗り方指導と合わせて、あいさつの声かけを行う



6月



の久礼中学校

- 6月 6日（土）高吾地区体育大会（～8日）
8日（月）学力向上サポーター勤務開始日
9日（火）カツオのたたき体験実習（2A）
11日（木）歯科検診
12日（金）英語検定①，漢字検定①
15日（月）3年実力テスト
16日（火）カツオのたたき体験実習（2B）
18日（木）地域参観日
20日（土）数学検定①
22日（月）地域あいさつ運動
24日（水）期末テスト発表・部活動停止
26日（金）生徒総会



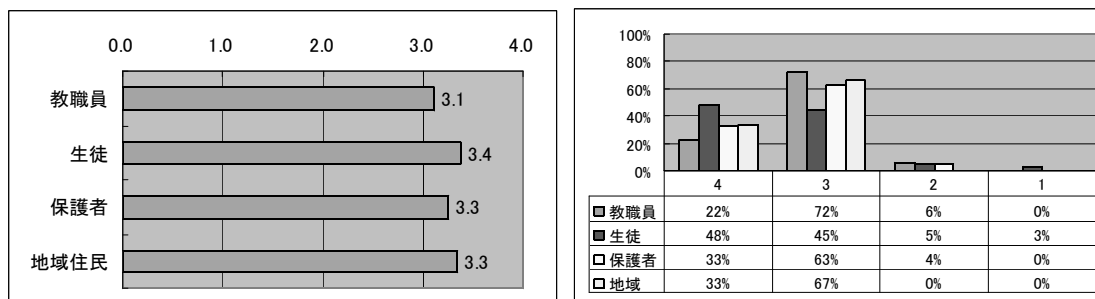
お知らせ

4月に行われたRKC招待野球大会で、久礼中学校野球部はベスト8になりました

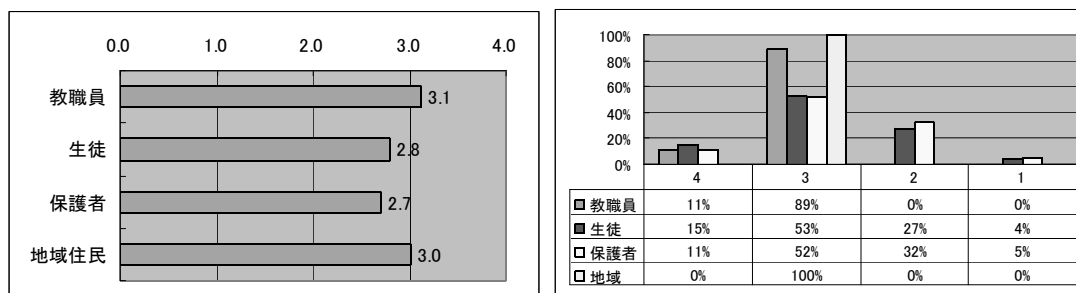
「より良い学校づくりに関するアンケート」集計結果

4－よくあてはまる 3－ややあてはまる 2－あまりあてはまらない 1－まったくあてはまらない

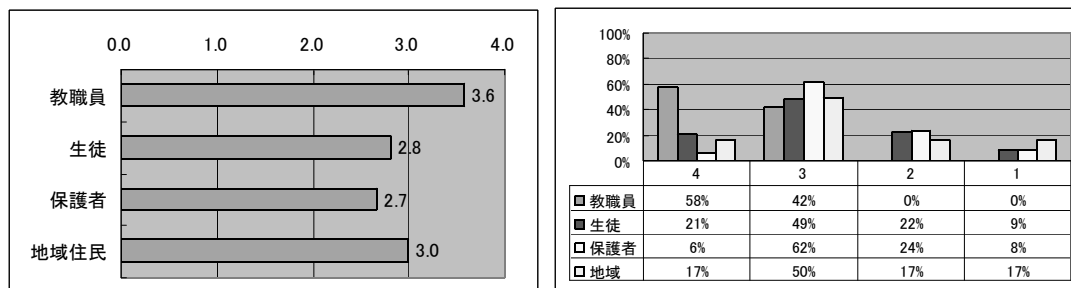
問1 久礼中の生徒は、学校生活を楽しいと感じていると思いますか。



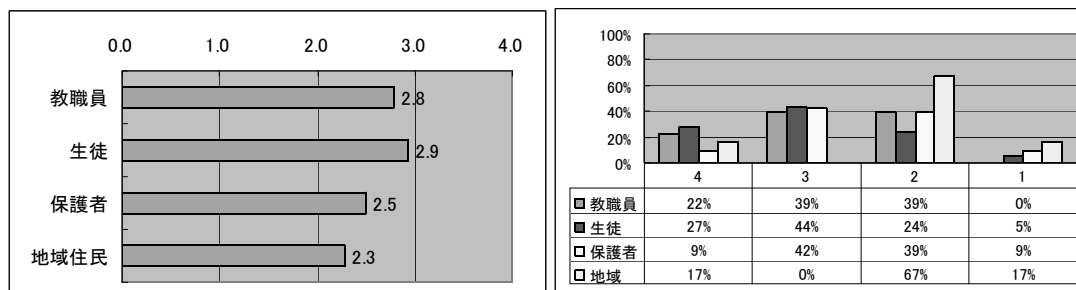
問3 学校の授業は、楽しく分かりやすいものになっていると思いますか。



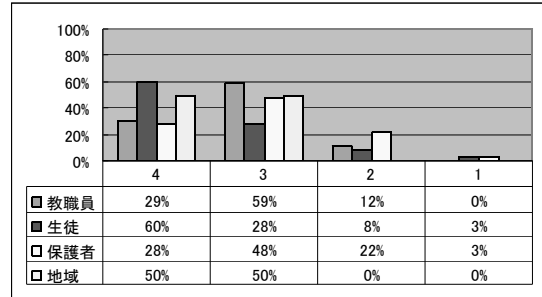
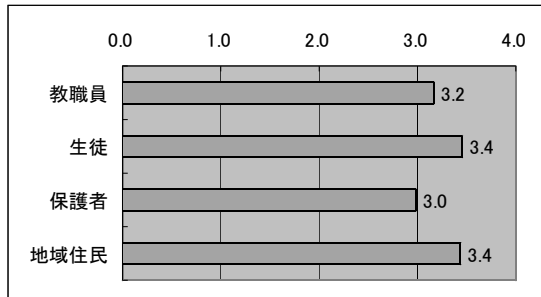
問4 久礼中学校では、生徒の学力向上を教育重点目標に掲げ、少人数指導や学力向上サポーターなどを活用して学力向上に取り組んでいます。本校の学力向上を目指す取組は、成果を上げていると思いますか。



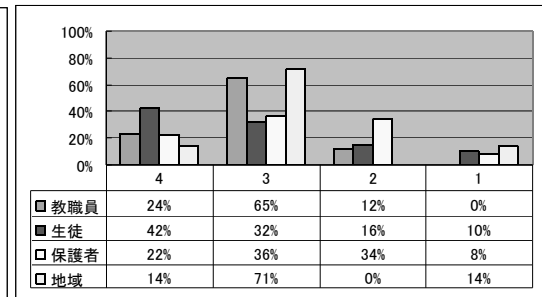
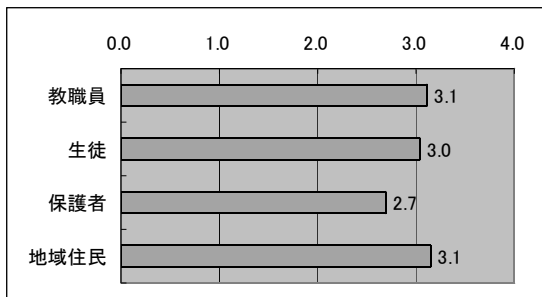
問6 久礼中学校では、あいさつのできる学校を目指し、全校であいさつ運動に取り組んでいます。この取組は、成果を上げていると思いますか。



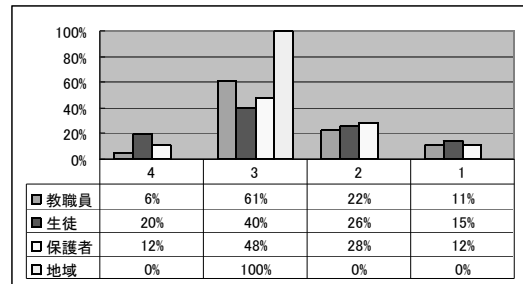
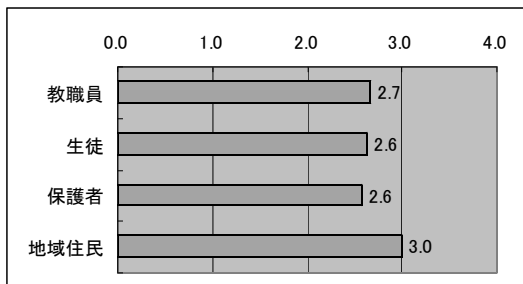
問 1 0 今年度の総合的な学習によって、久礼中の生徒は、今まで以上に地域のことを知り、考えるようになったと思いますか。



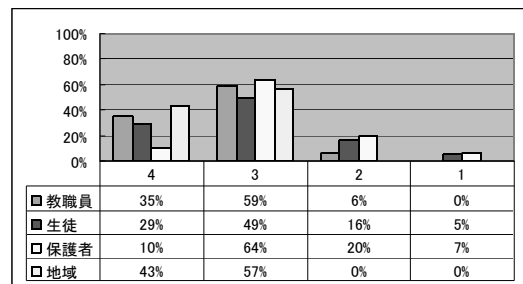
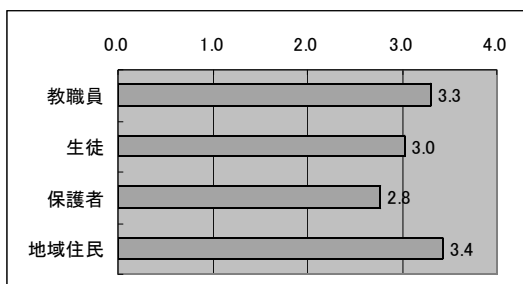
問 1 1 現在の部活動は、充実したものになっていると思いますか。



問 1 2 久礼中学校は、スクールカウンセラーの配置など、生徒の悩み・相談に対応できる体制作りを図っています。現在の本校は、生徒の悩み・相談に対応できる学校になっていると思いますか。



問 1 4 久礼中学校は、地域で子どもを育てる「コミュニティ・スクール」を目指して、地域が参画する学校運営を進めています。地域が学校運営に参画することで、学校はより良くなっていると思いますか。



地域で子どもを育てる 教育環境づくり



中土佐町立久礼中学校
教頭 黒瀬 忠行

久礼中学校の概要

- 中土佐町の中心部「久礼」地区にある
- カツオの町・漁師町
カツオに懸ける町の熱い思い
- 保・小・中連携を進めている
1保育所, 1小学校, 1中学校

生徒の実態

- 全校生徒130名, 教職員17名
- 海の子らしく、明るく活発で、表情が良い
- 過去には、学校が荒れ、落ち着きを失った時もあった
- 現在は、落ち着いた学校生活を送っている

本校の重点的な取組

- 教育目標「何事にも力が発揮できる学校」
- 集団づくり・環境づくり
あいさつ運動, 全校読書, 授業規律
- 学力向上の取り組み
授業評価, 基礎学力テスト, 授業改善
- コミュニティ・スクール
保護者・地域の力を借りた様々な取り組み

コミュニティ・スクール指定前の状況

- 学校が理解されていない(誤解されている)
学校は荒れているのではないか
生徒の学力が身についていない
部活動の練習が盛んでない など
- 学校と地域のつながりがあまりない
総合的な学習の時間などで、地域から
学ぶ学習に取り組みたい

コミュニティ・スクールを目指した理由

- 学校と保護者・地域が学校運営について協議する場を持つことができる
教職員と保護者、地域の方とが心通う・共に喜び合う状況づくりを進めたい
- 地域の声を学校運営に反映させることができる
地域が望んでいる「地域について学ぶ学習」を取り入れていきたい

コミュニティ・スクールへの課題

- 学校運営協議会において、何を議題とするのか。
- 学校運営協議会場で、学校の実情をどこまで伝えていくか。

何を議題とするのか

- 協議会の条件
学校運営協議会の委員の方が理解できるもの、参画できるもの
- 重視する視点
生徒、保護者・地域の方の力を活かすことができるもの

学校の実情をどこまで伝えていくか

- 学校運営協議会の委員には守秘義務がある
- 学校運営に真に参画していくためには、様々な事案を隠さずに伝えていくことが大切である

久礼中が目指す学校運営協議会

めざすもの

教職員と保護者・地域の方が心通う・共に喜び合うことのできる状況づくり

協議会の条件

学校運営で委員の方が理解でき参画できるもの

学校運営協議会



重視する視点

生徒、保護者・地域の方の力を活かすことができるもの

取組

学校、家庭、地域・行政が協力し作品を仕上げる

本校のめざすコミュニティ・スクール

地域で子どもを育てる教育環境づくり

- 様々な教育課題は、もはや学校教育だけでは解決できない
- 子どもの健全育成の問題は、学校教育、家庭教育、社会教育の共通の課題である
- 地域は、公立学校の特有の財産である

久礼中学校運営協議会

- 12名で構成
地域代表4名、保護者代表3名
地域内保育所・小学校2名
教育行政代表2名、教職員代表1名
- 年間5回の開催
- 提案した取組を実際に行うために、委員が3部会に分かれて活動

学校運営への提言

- 生徒の学力向上を目指して欲しい
- 学校と地域をつなぐコーディネーター役が必要ではないか
- 部活動の充実を図って欲しい
- あいさつのできる生徒へと育成して欲しい

あいさつ運動

- あいさつ運動標語の募集
- 防災無線を活用した啓発活動
- 地域での声かけ(地域あいさつ運動)
自転車の乗り方指導と合わせて月1回街頭指導

学校行事への要望

- 地域住民が参加しやすい工夫をして欲しい
- 体育祭に地域の伝統芸能「おなばれ」演技を取り入れる
- 地域の課題解決を目指した中学生としての意見を文化発表会で発表する

地域との協働学習

- 南海地震に備えた防災学習
- 人権講演会の開催
- 朝食作り教室
地域で活躍しているヘルスメイトと連携
- カツオのたたき体験実習
カツオに懸ける地域の思いを知る

総合的な学習

- スローガン「地域を舞台に、地域から学ぶ」
- ふれあい学習(1年)
地域の指導で文化・芸能の体験活動を行う
 - トライワーク(2年)
町内事業所の協力で、職場体験学習を行う
 - 中土佐町の課題(3年)
地域の課題を探り、課題解決への提案を行う

その他

- 新校舎の設計への意見
生徒意見の取り入れ, ランチルーム
- 課題を抱える生徒への対応
学校と地域の関係者間で情報交換
- 学校の情報をもっと伝えて欲しい
「コミュニティ・スクールだより」の発行
ホームページでの情報発信

コミュニティ・スクールだより

- 月1回発行
教職員・保護者には全員配付
学校と関わりが深い個人・事業所に配付
地域への回覧で回す
ホームページでも閲覧可能
- 学校の取組を地域に伝える
- 来月の行事予定を伝える

学校支援地域本部事業

- 久礼中学校区で指定を受け、事業展開
- 学校運営協議会が事業実施の土台となる役割を担う
- 事業の進捗状況を随時報告するとともに、事業実施に対する意見をその都度出してもらう

学校関係者評価

- 学校運営協議会において学校関係者評価を実施
- 学校の自己評価、教職員・生徒・保護者・地域住民を対象としたアンケート結果を学校運営協議会で報告している

取り組みの成果

- 学校とあまり関わりの無かった方々とながりを持つことができ、学校と地域の連携を進めることができた。
- 広報活動や地域との協働により、学校の取組を地域に広く伝えることができた。
- 生徒への声かけが多くなり、地域で子どもを育てる機運が高まった。

今後の課題

- 学校の取組を理解し協力・支援してくれる地域住民をもっと増やしていくこと
- 地域を協力者から参画者に高め、一定の責任を持って学校に主体的に携わろうとする意識を持たせること

今後の取組予定

- 地域コーディネーターを活用して、学校が地域の支援を必要とする用務の洗い出しを進めていく
- 生徒・保護者・地域住民の声を聞くとともに学校運営協議会が学校関係者評価を行い、次年度の学校運営に活かす仕組みを確立する。